

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム(2018)第18巻:

%

|| 編 || 集 || 後 || 記 ||

最近、教授会、大学院委員会、病院運営委員会などでは配布資料が電子化されました。紙で配付されていた時には未整理の資料が机の上にどんどん増えて、時々雪崩を起こしていたのですが、このところ資料の増加ペースが落ちてきて、雪崩の頻度も減少しています。また、学会誌などもオンライン化が進んできています。この旭川医科大学研究フォーラム誌も電子書籍となっています。資料や電子書籍類は印刷物がないので整理や検索が容易で、パソコンなどがあればどこでも読むことができます。机の上の雪崩も生じません。良いことばかりなので、今後多くの印刷物が電子化されると思います。ただ、困っていることがあります。複数の資料や文献を読み比べ参考とする際、パソコン上だけではうまくできず、考えをまとめられないのです。結局印刷して付箋を貼ったりしています。解決策は慣れでしょうか。

さて、研究フォーラム第18巻をお届けします。本号は投稿論文が3編、依頼稿が4編で、学界の動向、本学教員執筆書籍の紹介、旭川医科大学回顧録となっています。非常に読み応えのある内容ですので、是非ご一読下さい。

お忙しい中、ご執筆下さった皆様、査読をご担当下さった皆様に厚くお礼申し上げます。

(H. H)

第18号 表紙解説

人は様々なモノを生み出してきましたが、今回は、「船・車輪・文字」にフォーカスしてみましょう。人類は発達するにつれ、自分のテリトリーを離れ、地元産の作物や工芸品を他の集団と交易するための移動手段として、海上では船舶、陸上では、荷車を生み出してきました。

船の歴史をたどればその初めは、丸木船（木の幹をくりぬいた船）からはじまり、次第にアシヤイグサ、パピルスを経て、より長い航海の可能な素材として大型の船舶へと進化していきました。エジプトを例にとりその航跡を辿りますと、ナイル河のほとりを離れて、地中海、アフリカ南端（喜望峰）からインド洋、太平洋、南北アメリカといった、壮大な大航海時代に繋がっていったと思われます。

次に車輪は、陸上を主なる活躍の場として、その初めは丸太棒だったものが大きな外周を持つ「車輪」とその中心を貫く「車軸」へと発展し、その後スポークやホイール・空気式タイヤに繋がっていくのですが、道路の整備とともにその役割は、物品の運搬に留まりませんでした。

「船と車輪」が成した大きな使命の一つは「文字・言葉」の伝達であったろうと思われます。文字の書記媒体も、粘土板、パピルス、布、紙、電子メディアといったように変化してきました。記録された文字は、話者の寿命を超えて、後の世代へと引き継がれていきました。それが、人間全体の文明の進歩に大きく貢献してきたことは、想像に難くありません。（ウィキペディア参照）

帆船によっていづこからともなく運ばれてきた、ロゼッタストーンと思われる石版を丸太のコロに載せ、その価値を知ってか知らずか、必死にいづこかに運ぶ男たち。その先には何が待っているのでしょうか。

ロゼッタストーン：紀元前196年、プトレマイオス5世によってメンフィスで出された勅令が刻まれた石碑の一部。1799年、エジプト遠征中のナポレオン軍によって発見された、縦114cm、横72cm、厚さ27cm、重量760kgの石版。碑文は古代エジプト語の神聖文字（ヒエログリフ）と民衆文字（デモティック）、ギリシア文字の三種類の文字で同じ内容が記述されている。1822年、ジャン＝フランソワ・シャンポリオンらによって解読された。

整形外科学講座 今井 充